

わが国におけるシステム監査の現状

——システム監査普及状況調査結果——

平成 2 年 3 月



財団法人 日本情報処理開発協会



この資料は、日本自転車振興会から競輪収益の一部である機械工業振興資金の補助を受けて、平成元年度に実施した「セキュリティ対策に関する調査研究」の一環としてとりまとめたものであります。

序

当協会では、このたびわが国におけるシステム監査の普及状況を把握するため、「システム監査普及状況調査」を実施した。今回の調査は情報システム部門を対象に行い、システム監査普及の傾向を把握することをねらいとしている。本調査結果が、システム監査推進の一助となれば幸いである。

平成2年3月

財団法人 日本情報処理開発協会

目 次

1. 調査の概要	1
1. 1 調査の目的	1
1. 2 調査の対象	1
1. 3 調査時期	1
1. 4 回収状況	1
1. 5 調査項目	1
2. 調査結果	5
3. 「システム監査普及状況調査」集計結果	11
4. アンケート様式	27

1. 調査の概要

1. 調査の概要

1. 1 調査の目的

本調査は、わが国におけるシステム監査の普及状況を、情報システム部門に対して調査し、現状と問題点を把握するとともに、今後のシステム監査の普及促進に役立てることを目的として実施したものである。

1. 2 調査の対象

日本情報処理開発協会が毎年実施している「コンピュータ利用状況調査」の母集団 4,298事業体を対象とした。

1. 3 調査時期

調査票発送	平成元年12月4日
回収締切	平成元年12月25日

1. 4 回収状況

発送数	4,298
回収数	1,296
回収率	30.2%

1. 5 調査項目

(1) 一般的事項

- ・システム監査基準の認識度
- ・システム監査人の有無、所属
- ・システム監査技術者試験の合格者の有無

(2) システム監査の実施について

- ・システム監査の経験
- ・システム監査規定
- ・システム監査の実施方法

(3) 昭和63年度のシステム監査の実施について

- ・システム監査の経験
- ・システム監査を受けた業務段階
- ・システム監査実施の事前通知
- ・システム監査実施上の問題点
- ・講評会、報告会の実施
- ・改善勧告
- ・システム監査の効果

(4) システム監査のあり方について

- ・システム監査の着眼点
- ・システム監査の充実による効果
- ・システム監査人の知識・能力

- (5) 外部委託について
 - ・外部委託の有無
 - ・委託先の選定基準
 - ・委託業務に対するシステム監査の実施
- (6) 電子計算機システム安全対策基準について
 - ・安全対策基準の認識度
 - ・同基準の使用の有無
- (7) パスワード管理について
 - ・パスワード使用の有無
 - ・パスワードの使用分野
 - ・パスワードの変更
 - ・パスワードの桁数・使用文字種
 - ・パスワードの管理

表 1. 回収状況

業 種	発 送 数	回 収 数	回収率%	平均従業員数
農・林・漁・狩猟・水産養殖業	16	3	18.8	530
鉱 業	15	2	13.3	968
建設業	203	67	33.0	2,390
食品製造業	167	30	18.0	1,922
繊維工業	117	23	19.7	1,763
紙・パルプ・紙加工品製造業	56	13	23.2	1,289
新聞業・出版業	35	10	28.6	1,458
印刷業・同関連産業	28	5	17.9	1,453
化学工業	275	68	24.7	2,061
石油製品製造業	30	6	20.0	1,223
窯業・土石製品製造業	75	16	21.3	1,128
鉄鋼業	70	23	32.9	6,428
非鉄金属製造業・金属製品製造業	158	41	25.9	1,254
一般機械器具製造業	203	47	23.2	1,472
電気機械器具製造業	266	82	30.8	6,049
輸送用機械器具製造業	145	52	35.9	5,939
精密機械器具製造業	92	38	41.3	2,205
その他の製造業	148	58	39.2	1,102
卸業・商社	409	113	27.6	800
小売業	265	66	24.9	1,922
金融業	329	137	41.6	1,481
証券業・商品取引業	31	3	9.7	813
生命保険業（含代理業・サービス業）	22	12	54.5	20,002
損害保険業（含代理業・サービス業）	23	5	21.7	5,106
不動産業	56	13	23.2	495
運輸・通信業	185	61	33.0	2,312
電力・ガス事業	24	10	41.7	9,210
放送業	30	12	40.0	588
広告・調査・情報提供サービス業	19	7	36.8	1,299
情報処理サービス業・ソフトウェア業	219	79	36.1	339
医療業	39	6	15.4	648
宗教法人	1	1	100.0	—
高 校	25	7	28.0	71
大 学	76	35	46.1	473
その他の教育機関	37	12	32.4	174
学術研究機関	11	4	36.4	247
法人団体・農協	115	29	25.2	296
その他のサービス業	111	27	24.3	1,312
政 府	25	8	32.0	595
地方公共団体	147	65	44.2	3,731
合 計	4,298	1,296	30.2	2,320

2. 調査結果

2. 調査結果

(1) 一般的事項について

- ①通産省から公表されているシステム監査基準を知っているのは80.7%で、名称の浸透がかなり進んでいることを物語っている。
- ②システム監査基準の内容については、「良く知っている」のは14.2%と少ないが、「だいたい知っている」のが57.9%で、両者を合わせると70%を超える。昭和60年に発表された基準としては、理解の浸透もかなり進んでいると評価できよう。
- ③システム監査基準の理解は別として、実際にシステム監査人を置いている企業は9.9%にすぎない。また、そのシステム監査人を「内部監査部門」に所属させているのが74.1%、「情報システム部門」に所属させているのが14.7%となっている。
- ④今回のアンケート調査の回答企業で、通産省の情報処理システム監査技術者試験の合格者がいるのは7.4%である。その中の62%は1人だけいる企業で、平均人数は2.8人となっている。

(2) システム監査の実施について

- ①システム監査を受けたことがある情報システム部門は20.9%である。
- ②システム監査が実施されている企業で、システム監査規定を定めているのは23.1%（全体の4.8%）にすぎない。
- ③システム監査の実施形態は、内部監査部門型が57.9%と最も多いが、ついでコンサルタント委託型が32.0%とつづいている。このコンサルタント委託型については、もう少し詳しく内容を検討してみる必要があると思われる。

(3) 昭和63年度のシステム監査実施について

(a) 実施について

- ①昭和63年度にシステム監査を受けた企業は、これまでにシステム監査を受けた経験をもつ企業の69.0%（全体の14.4%）である。すなわち、システム監査は、すべてが組織的・継続的に実施されているのではないことを物語っている。単発的に実施されているシステム監査もあるということである。
- ②システム監査の実施段階は、運用段階が96.8%と中心であるが、昭和63年度に実施されたシステム監査で初めて開発段階が半数を超えた。これは、定期的にシステム監査を実施している企業においては、内容的にも着実に前進していることを物語るものとして注目される。

③システム監査の実施にあたっては、90.2%が事前に通知している。事前通知は、1週間以上前に行うのが80%を超えている。しかし、情報システム部門の希望としては、3週間以上を望む声が60%を超えている。

(b) 問題点について

①システム監査の実施体制・方法に問題点があったとするのは35.7%である。

②問題点の中では、「監査人のコンピュータシステムに関する知識不足」を指摘するのが31.8%と圧倒的に多い。ついで「監査人の監査対象業務に関する知識不足」を指摘するのが18.2%とつづいている。すなわち、問題点の50%はシステム監査人の知識不足が問われていることになる。

③システム監査が現場の負担になり、「通常業務に支障をきたした」のはわずかに5.9%にすぎず、「負担はあったが通常業務に支障をきたすほどではなかった」というのが68.1%を占めている。すなわち、システム監査の実施が現場の業務に大きな影響は与えていないというのが現状である。

④問題点があった場合の主な意見は、「システム監査人へ提出すべき資料を整理していなかった」のが31.6%と最も多く、ついで「資料要求が多すぎた」のが19.7%と続いている。前者は監査を受ける側の問題であり、後者は監査をする側の問題である。すなわち、システム監査人の資料要求をめぐる問題点ということができる。

⑤システム監査を効率的に実施するためには、「実施手続きの標準化」を図るべきとするのが32.8%と最も多く、ついで「システム監査人の能力アップ」と「情報システム部門の協力」がともに18.0%と続いている。

(c) システム監査の結果について

①システム監査人は、システム監査の結果について、報告書を作成する前に被監査部門と意見交換をしているのが77.8%を占めている。すなわち、システム監査人は、監査結果について、被監査部門の意見を聴いたり、確認すべき点は確認をして、報告書を作成しているといえる。

②報告書が作成された後、関係者を含めて報告会を行っているのは56.0%である。この数字を高いとみるか低いとみるかについては意見の分かれるところであろう。それぞれの企業内における方針の差であろうと思われる。

(d) 改善勧告について

①システム監査の結果、改善勧告を受けたケースは、81.6%にのぼっている。そして、その改善勧告を受けてどうしたかについては、「実施した」のが37.3%、「一部実施した」のが58.7%、合わせて96.0%が改善勧告を実施している。

②改善勧告や指摘事項の内容については、「妥当だと思う」のが61.5%、「一部妥当だと思う」のが36.5%で、合わせて98.0%に達しており、問題視されていないことを物語っている。

(e) システム監査の効果について

①システム監査を受けた被監査部門のうち、「効果があったと思う」のが66.3%を占めており、監査を受けた側にも評価されていることを示している。

②システム監査の効果としては、「担当者がリスクを考慮しながら業務を実行するようになった」というのが30.3%、「システムの信頼性向上対策のレベルが明らかになった」のが29.5%で、この2つが主要なものである。

③システム監査により、最も改善が図れたのは、「規則・手続き等の遵守」が31.4%、「セキュリティ対策の向上」が30.6%で、この2つで60%を超えている。

(4) システム監査のあり方について

①システム監査で重視すべき業務段階別の着眼点の上位3位まではつぎのようになっている。

	1位	2位	3位
企画業務	採算性23.4%	信頼性22.7%	安全性17.7%
開発業務	信頼性44.0%	適時性16.0%	採算性10.8%
運用業務	安全性35.8%	信頼性30.9%	機密性18.8%

企画業務では採算性と信頼性が、開発業務では信頼性が、運用業務では安全性と信頼性が、それぞれ最優先されているといえる。

②システム監査の充実によって最も効果があがると思われているのは、「ヒューマンエラー対策」という意見が57.2%と多い。他の観点では、「適時性」が60.2%を占めている。

③システム監査の実施過程で充実させなければならないのは、「実地調査」が26.2%、「改善勧告内容」が24.9%などとなっている。

④コンピュータ犯罪、ヒューマンエラー、事故防止などの観点から、システム監査でとくに重視すべき分野の上位3位まではつぎのようになっている。

	1位	2位	3位
コンピュータ犯罪防止	情報保管27.5%	データの入力プロセス15.2%	通信回線13.1%
ヒューマンエラー防止	データの入力プロセス37.0%	パレション21.2%	プログラム変更13.9%
事故防止	ハードウェア23.9%	情報保管19.2%	データ処理プロセス12.6%

- ⑤システム監査人の知識や能力については、「知識能力をもっと身につけるべきだ」という意見が39.2%あるが、「特にない」が過半数を超える59.4%にのぼっている。
- ⑥システム監査人に不足していると思われる知識・能力としては、「業務知識」が28.0%、「全体的にレベルアップ」が22.8%、「コンピュータ技術」が22.5%などが主なものである。
- ⑦システム監査は誰が実施するのが効果的かについて、前回調査（昭和63年実施）結果と今回調査結果とを比較するとつぎのとおりである。

	今 回	前 回
監査役	7.3%	5.8%
内部の監査人	26.1%	36.4%
情報システム部門の要員	5.5%	3.3%
情報処理システム監査技術者試験の合格者	18.1%	16.4%
公認会計士	5.2%	3.6%
外部のシステム監査コンサルタント	36.5%	33.5%
その他	1.2%	1.1%

この結果で注目されることは、第1に今回調査では「外部のシステム監査コンサルタント」が、「内部の監査人」を抜いて1位になったことである。第2に、今回調査では、「外部のシステム監査コンサルタント」と「情報処理システム監査技術者試験の合格者」の比率がアップし、他はすべて減少していることである。

(5) 外部委託について

- ①昭和63年度に外部委託を行った企業は38.4%である。
- ②委託先の選定基準は、第1が「必要な技術能力を持っていること」で88.7%、第2が「経営が安定していること」で42.0%、そして「委託料が安いこと」が33.4%、「セキュリティ対策が十分であること」が26.1%とつづいている。以上の4項目が主な選定基準といえることができる。
- ③外部委託業務についてシステム監査を実施しているのは9.2%にすぎない。その場合、情報システム部門が実施しているのが55.8%、内部監査部門が実施しているのが34.9%となっている。
- システム監査の方法は、「実地調査」が75.0%、「書面調査」が52.3%、「意見聴取」が43.2%などとなっている。

(6) 安全対策基準について

- ①通産省から電子計算機システム安全対策基準が公表されていることを知っているのは72.3%で、システム監査基準の公表を知っている（80.7%）より低い。

- ②基準の内容をどの程度知っているかについて、安全対策基準とシステム監査基準を比較してみるとつぎのとおりである。

	電子計算機システム安全対策基準	システム監査基準
良く知っている	16.2%	14.2%
だいたい知っている	62.7%	57.9%
知らない	21.1%	27.9%

以上のことから、基準の名称としてはシステム監査基準の方が若干普及しているが、内容の理解については安全対策基準の方が若干進んでいるといえる。

- ③安全対策の評価・チェックのために安全対策基準を使用したことがあるのは47.5%で、そのうちの49.5%は現状にそぐわない点や追加の必要性等を認めている。

(7) パスワード管理について

- ①パスワードを使用しているのは75.1%である。最も普及しているのが端末操作のパスワード(89.2%)である。

- ②パスワードを変更していないケースが結構多く、つぎのとおりである。

	パスワード使用率	変更していない比率
入退出管理のパスワード	22.4%	39.9%
端末操作のパスワード	89.2%	49.9%
データベースへのアクセスの専用パスワード	54.6%	46.1%
プログラムへのアクセスの専用パスワード	48.4%	47.2%
ジョブ実行の専用パスワード	42.7%	49.5%

- ③パスワードの使用文字種は、入退出管理のパスワードは「数字のみ」が75.3%と高いが、ほかは「英数字」が最も多い。

- ④パスワードの管理責任者が定められているのは、58.9%である。

- ⑤IDカードは、入退出管理で26.7%使用されているが、他ではあまり使用されていない。

3. 「システム監査普及状況調査」集計結果

3. 「システム監査普及状況調査」集計結果

I

一般的事項についてお答え下さい

Q 1. 通産省からシステム監査基準が公表されていることを知っていますか。

1	知っている	1,043件	80.7%
2	知らない	250	19.3
計		1,293	100.0

Q 2. システム監査基準の内容を知っていますか。

1	良く知っている	137件	14.2%
2	だいたい知っている	558	57.9
3	知らない	269	27.9
計		964	100.0

Q 3. 貴社にはシステム監査人がいますか。

1	い る	127件	9.9%
2	いない	1,161	90.1
計		1,288	100.0

Q 4. システム監査人はどこに所属していますか。

1	内部監査部門	86件	74.1%
2	情報システム部門	17	14.7
3	その他	13	11.2
計		116	100.0

Q 5. 貴社には情報処理システム監査技術者試験の合格者がいますか、いる場合は何人ですか
(所属部門は問いません)。

1	い る	95件	7.4%
2	いない	1,183	92.6
計		1,278	100.0

1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人	9人	10人以上	合 計	平 均
57	13	7	4	2	1	0	1	0	7	92件	2.8人

Ⅱ

システム監査の実施についてお答え下さい

Q 6. 貴部門では、システム監査を受けたことがありますか。

1	受けたことがある	270件	20.9%
2	受けたことはない	1,019	79.1
計		1,289	100.0

Q 7. システム監査規定が定められていますか。

1	定められている	62件	23.1%
2	他の社内規定でシステム監査の実施が明記されている	33	12.3
3	定められていない	156	58.2
4	わからない	17	6.3
計		268	100.0

Q 8. システム監査はつぎのどの方式で実施されましたか。（多重回答）

1	内部監査部門型（監査部、考査部等が実施）	154件	57.9%
2	コンサルタント委託型（外部のシステム監査コンサルタントへ委託）	85	32.0
3	部門監査型（情報システム部門で実施）	41	15.4
4	指名方式（トップから指名された者がシステム監査人となり実施）	10	3.8
5	委員会方式（システム監査委員会を設置して実施）	3	1.1
6	チームアプローチ（システム監査プロジェクトチームを編成して実施）	7	2.6
7	その他	43	16.2
8	わからない	4	1.5
計		266	—

Ⅲ

昭和63年度のシステム監査実施についてお答え下さい

Q 9. 昭和63年度にシステム監査を受けましたか。

1	受けた	185件	69.0%
2	受けない	83	31.0
計		268	100.0

Q10. システム監査を受けたのはどの段階でしたか。

1	企画段階	44件	23.8%
2	開発段階	96	51.9
3	運用段階	179	96.8
計		185	—

Q11. システム監査の実施にあたっては、事前に通知がありましたか。

1	あった	166件	90.2%
2	なかった	18	9.8
計		184	100.0

Q12. 事前通知は、システム監査実施のどれ位前に行われましたか。

1	1～3日	9件	5.4%
2	3日～1週間	19	11.4
3	1～2週間	33	19.9
4	2～3週間	18	10.8
5	3週間～1ヵ月	41	24.7
6	1ヵ月以上	46	27.7
計		166	100.0

Q13. 事前通知はどれ位前に行ってほしいですか。

1	1～3日	7件	3.9%
2	3日～1週間	12	6.7
3	1～2週間	34	18.9
4	2～3週間	17	9.4
5	3週間～1ヵ月	54	30.0
6	1ヵ月以上	56	31.1
計		180	100.0

Q14. システム監査実施体制・方法に問題がありましたか。

1	あった	66件	35.7%
2	なかった	119	64.3
計		185	100.0

Q15. どのような点が問題だと思いましたか、つぎの中から1つだけ選んで下さい。

1	監査目的が不明瞭であった	14件	21.2%
2	監査人の権限および役割分担が不明確であった	9	13.6
3	現場（被監査部門）との調整が不十分であった	6	9.1
4	監査人の態度が良くなかった	0	0
5	監査人の監査対象業務に関する知識が不足していた	12	18.2
6	監査人のコンピュータシステムに関する知識が不足していた	21	31.8
7	その他	4	6.1
計		66	100.0

Q16. システム監査を受けた時、現場の負担はありましたか。

1	負担はなかった	46件	24.9%
2	負担は多少あったが、通常業務に支障をきたすほどではなかった	126	68.1
3	通常業務に支障をきたした	11	5.9
4	その他	2	1.1
計		185	100.0

Q17. どのような点に問題があったと思いますか。つぎの中から1つだけ選んで下さい。

1	システム監査計画に無理があった	5件	4.3%
2	システム監査方法が現場を無視したものであった	2	1.7
3	システム監査人へ提出すべき資料を整理していなかった	37	31.6
4	資料提出や意見聴取の指示が不明確であった	16	13.7
5	資料要求が多すぎた	23	19.7
6	現場の説明がシステム監査人に理解されなかった	10	8.5
7	監査プログラムの使用のために現場に負担がかかった	8	6.8
8	実地調査が多すぎた	2	1.7
9	その他	14	12.0
計		117	100.0

Q18. システム監査を効率的に実施するためには、どのようにしたらよいと思いますか。最も重要と思われるものを1つ選んで下さい。

1	監査技法の利用	14件	7.7%
2	情報システム部門の協力	33	18.0
3	情報システム部門自身による実施	11	6.0
4	実施手続きの標準化	60	32.8
5	システム監査人の能力アップ	33	18.0
6	外部のシステム監査コンサルタントの利用	15	8.2
7	トップ主導による実施	12	6.6
8	その他	5	2.7
計		183	100.0

Q19. 監査結果について、システム監査人と貴部門との間で講評会（報告書を作成する前での意見交換、確認等を行うことをいう）が行われましたか。

1	行われた	144件	77.8%
2	行われなかった	41	22.2
計		185	100.0

Q20. 監査報告書の作成後に関係者を含めた監査報告会が行われましたか。

1	行われた	103件	56.0%
2	行われなかった	81	44.0
計		184	100.0

Q21. 監査報告会に出席されたのは誰ですか。（多重回答）

1	最高経営者（会長、社長、知事、市長 等）	25件	24.5%
2	財務担当役員	18	17.6
3	情報システム担当役員	39	38.2
4	監査役	33	32.4
5	情報システム部門	80	78.4
6	内部監査部門	47	46.1
7	ユーザ部門	15	14.7
8	外部のシステム監査コンサルタント	14	13.7
9	その他	4	3.9
計		102	—

Q22. 改善勧告を受けましたか。

1	受けた	151件	81.6%
2	受けない	34	18.4
計		185	100.0

Q23. 改善勧告を実施しましたか。

1	実施した	56件	37.3%
2	一部実施した	88	58.7
3	実施していない	6	4.0
計		150	100.0

Q24. 報告書の指摘事項や改善勧告の内容について妥当だと思いますか。

1	妥当だと思う	91件	61.5%
2	一部妥当だと思う	54	36.5
3	妥当だと思わない	3	2.0
計		148	100.0

Q25. システム監査を受けた結果、被監査部門としては効果があったと思いますか。

1	効果があったと思う	122件	66.3%
2	効果がなかったと思う	9	4.9
3	どちらともいえない	50	27.2
4	わからない	3	1.6
計		184	100.0

Q26. システム監査はどのような点に効果があったと思いますか。つぎの中から1つだけ選んでお答え下さい。

1	システムに起因する事故が未然に防止できた	5件	4.1%
2	リスク対策をどこまで考慮すればよいかが明らかになった	23	18.9
3	担当者がリスクを考慮しながら業務を実行するようになった	37	30.3
4	システム部門に対する過大な要求がなくなった	2	1.6
5	システムの信頼性向上対策のレベルが明らかになった	36	29.5
6	システムの有効利用が促進された	7	5.7
7	有効なシステムの開発設計が可能になった	2	1.6
8	その他	10	8.2
計		122	100.0

Q27. どのような点で最も改善が図れたと思いますか。つぎの中から最も改善が図れた業務を1つ選んで下さい。

1	スケジュール管理の適正化	4件	3.3%
2	コストの削減	0	0
3	情報の保護対策の向上	11	9.1
4	セキュリティ対策の向上	37	30.6
5	生産性の向上	0	0
6	品質管理の向上	12	9.9
7	規則・手続き等の遵守	38	31.4
8	ドキュメント類の整備	18	14.9
9	作業環境の改善	1	0.8
10	要員管理の適正化	0	0
11	その他	0	0
計		121	100.0

IV システム監査のあり方についてお答え下さい

Q28. 企画業務の監査で重視すべき着眼点をつぎの中から1つ選んで下さい。

1	安全性（システムの物理的安全性／不正防止）	224件	17.7%
2	信頼性（ハードウェア/ソフトウェアの正確さに基づく信頼性）	288	22.7
3	機密性（データの権限者以外への機密）	107	8.4
4	準拠性（法律、条例、規則等への準拠）	117	9.2
5	採算性（コスト面からの効率）	297	23.4
6	適時性（開発、導入、アウトプット作成等のタイミング）	212	16.7
7	生産性（リソース面からの効率）	23	1.8
計		1,268	100.0

Q29. 開発段階の監査で重視すべき着眼点をつぎの中から1つ選んで下さい。

1	安全性（システムの物理的安全性／不正防止）	123件	9.7%
2	信頼性（ハードウェア/ソフトウェアの正確さに基づく信頼性）	559	44.0
3	機密性（データの権限者以外への機密）	68	5.4
4	準拠性（法律、条例、規則等への準拠）	54	4.2
5	採算性（コスト面からの効率）	137	10.8
6	適時性（開発、導入、アウトプット作成等のタイミング）	203	16.0
7	生産性（リソース面からの効率）	127	10.0
計		1,271	100.0

Q30. 運用段階の監査で重視すべき着眼点をつぎの中から1つ選んで下さい。

1	安全性（システムの物理的安全性／不正防止）	456件	35.8%
2	信頼性（ハードウェア/ソフトウェアの正確さに基づく信頼性）	393	30.9
3	機密性（データの権限者以外への機密）	239	18.8
4	準拠性（法律、条例、規則等への準拠）	24	1.9
5	採算性（コスト面からの効率）	53	4.2
6	適時性（開発、導入、アウトプット作成等のタイミング）	78	6.1
7	生産性（リソース面からの効率）	29	2.3
計		1,272	100.0

Q31. システム監査の充実によって最も効果があがると思われるのはどのような分野ですか。
つぎの中から1つ選んでお答え下さい。

1	コンピュータ犯罪対策	231件	18.5%
2	ヒューマンエラー対策	716	57.2
3	事故対策	293	23.4
4	自然災害対策	11	0.9
計		1,251	100.0

Q32. システム監査の充実によって最も効果があがると思われるのはどのような点ですか。つぎの中から1つ選んでお答え下さい。

1	適時性	736件	60.2%
2	採算性	268	21.9
3	生産性	218	17.8
計		1,222	100.0

Q33. システム監査の実施過程においては、どのような点を充実させなければならないと思いますか。
最も重要だと思われるものを1つ選んで下さい。

1	監査計画	213件	17.1%
2	事前調査	213	17.1
3	実地調査	326	26.2
4	改善勧告内容	310	24.9
5	報告会	66	5.3
6	チェックリスト	104	8.4
7	その他	11	0.9
計		1,243	100.0

Q34. コンピュータ犯罪、ヒューマンエラー、事故等の防止、ならびに早期発見の観点から、システム監査において特に重視すべき点はどこだと思いますか。最も重要だと思われる分野を各項目ごとに1つ選んで下さい。

分 野	データの 入力 プロセス	データ 処理 プロセス	情報 出力 プロセス	プログラム 変更	オペレー ション	情報 保管 (データ 管理)
コンピュータ犯罪	185 15.2	112 9.2	94 7.7	89 7.3	48 3.9	335 27.5
ヒューマンエラー防止	461 37.0	142 11.4	16 1.3	173 13.9	264 21.2	33 2.6
事故防止	29 2.4	155 12.6	51 4.1	73 5.9	116 9.4	236 19.2

上段：件
下段：%

分 野	入 退 室 (館)	シ ス テ ム 開 発	ハ ー ド ウ ェ ア	ソ フ ト ウ ェ ア	通 信 回 線	計
コンピュータ犯罪	114 9.4	38 3.1	0 0	43 3.5	160 13.1	1,218 100.0
ヒューマンエラー防止	9 0.7	107 8.6	0 0	38 3.0	3 0.2	1,246 100.0
事故防止	75 6.1	76 6.2	295 23.9	62 5.0	64 5.2	1,232 100.0

Q35. システム監査人の知識や能力に対して、どのようにお感じになりましたか。

1	知識・能力をもっと身につけるべきだ	406件	39.2%
2	特にない	615	59.4
3	十分満足するレベルだった	15	1.4
計		1,036	100.0

Q36. システム監査人に不足していると思われる知識・能力等は何ですか。つぎの中から最も重要と思われるものを1つ選んで下さい。

1	コンピュータ技術	90件	22.5%
2	業務知識	112	28.0
3	被監査部門とのコミュニケーションスキル	50	12.5
4	洞察力・判断力	55	13.8
5	全体的にレベルアップ	91	22.8
6	特にない	2	0.5
計		400	100.0

Q37. システム監査は誰が実施するのが効果的だと思いますか。最も効果的と思われるものを1つ選んで下さい。

1	監査役（団体等は監事、自治体は監査委員）	88件	7.3%
2	内部の監査人	315	26.1
3	情報システム部門の要員	66	5.5
4	情報処理システム監査技術者試験合格者	219	18.1
5	公認会計士	63	5.2
6	外部のシステム監査コンサルタント	441	36.5
7	その他	15	1.2
計		1,207	100.0

V

外部委託についてお答え下さい

Q38. 貴部門では、昭和63年度に外部委託を行いましたか。

1	行った	482件	38.4%
2	行わない	774	61.6
計		1,256	100.0

Q39. 委託先の選定はどのような基準で行っていますか、つぎの中から該当するものを選んで下さい。
(多重回答)

1	情報処理サービス業電子計算機安全対策実施事業所認定制度に基づく認定事業所であること	34件	7.1%
2	システム監査体制が確立していること	15	3.2
3	セキュリティ対策が十分であること	124	26.1
4	経営が安定していること	200	42.0
5	必要な技術能力を持っていること	422	88.7
6	委託料が安いこと	159	33.4
7	その他	27	5.7
計		476	—

Q40. 外部委託業務に対してシステム監査を実施しましたか。

1	実施した	44件	9.2%
2	実施していない	432	90.8
計		476	100.0

Q41. システム監査は誰が実施しましたか。

1	内部監査部門	15件	34.9%
2	情報システム部門	24	55.8
3	その他	5	11.6
計		43	—

Q42. システム監査はどのような点について実施しましたか。(多重回答)

1	委託業務の機密保持状況	19件	43.2%
2	委託業務の進捗管理状況	26	59.1
3	委託業務のドキュメント類の整備状況	28	63.6
4	委託業務のテスト状況	18	40.9
5	委託先のセキュリティ対策	12	27.3
6	規則・手続き等の遵守状況	28	63.6
7	その他	2	4.5
計		44	—

Q43. システム監査はどのような方法で行いましたか。(多重回答)

1	実地調査	33件	75.0%
2	書面調査(資料提出を要求)	23	52.3
3	意見聴取	19	43.2
4	質問書による調査	3	6.8
5	その他	0	0
計		44	—

VI

安全対策基準についてお答え下さい

Q44. 通産省から電子計算機システム安全対策基準が公表されていることを知っていますか。

1	知っている	926件	72.3%
2	知らない	354	27.7
計		1,280	100.0

Q45. 同基準の内容を知っていますか。

1	良く知っている	148件	16.2%
2	だいたい知っている	571	62.7
3	知らない	192	21.1
計		911	100.0

Q46. 貴社では、安全対策の評価・チェック等のために同基準を使用したことがありますか。

1	あ る	338件	47.5%
2	な い	374	52.5
計		712	100.0

Q47. 同基準を使用してみて、たとえば現状にそぐわない、あるいは追加の必要がある等、内容に問題がありましたか。

1	あ る	54件	49.5%
2	な い	55	50.5
計		109	100.0

VII

パスワード管理についてお答え下さい

Q48. 貴部門ではパスワードを使用していますか。

1	使用している	955件	75.1%
2	使用していない	317	24.9
計		1,272	100.0

Q49. どのようなことにパスワードを使用していますか。

	使用して いる	使用して いない	計
a. 入 退 出 管 理 の パ ス ワ ー ド	194 22.4	673 77.6	867件 100.0%
b. 端 末 操 作 の パ ス ワ ー ド	826 89.2	100 10.8	926 100.0
c. データベースへのアクセスの専用パスワード	480 54.6	399 45.4	879 100.0
d. プログラムへのアクセスの専用パスワード	425 48.4	453 51.6	878 100.0
e. ジョブ実行の専用パスワード	376 42.7	504 57.3	880 100.0

Q50. パスワードは変更していますか。(Q49で回答された項目についてお答え下さい)

	定期的に変更している						変更 している が非定期	変更 してい ない	計
	1 週 間 以 内 ご と	1 ヵ 月 以 内 ご と	3 ヵ 月 以 内 ご と	半 年 以 内 ご と	1 年 以 内 ご と	1 年 以 上			
a. 入退出管理のパスワード	5 2.6	13 6.7	8 4.1	10 5.2	13 6.7	4 2.1	63 32.6	77 39.9	193 100.0
b. 端末操作のパスワード	15 1.8	21 2.6	20 2.4	22 2.7	45 5.5	6 0.7	282 34.3	410 49.9	821 100.0
c. データベースへのアクセスの 専用パスワード	5 1.1	16 3.4	12 2.5	9 1.9	33 7.0	8 1.7	172 36.4	218 46.1	473 100.0
d. プログラムへのアクセスの 専用パスワード	3 0.7	11 2.6	8 1.9	10 2.4	27 6.5	3 0.7	158 37.9	197 47.2	417 100.0
e. ジョブ 実 行 の 専用パスワード	3 0.8	10 2.7	6 1.6	8 2.2	16 4.3	4 1.1	139 37.8	182 49.5	368 100.0

上段：件
下段：%

Q51. パスワードの桁数・使用文字種についてお答え下さい。(Q49で回答された項目についてお答え下さい)

	パスワードの桁数 (平均)	パスワードの使用文字種			
		数字のみ	英 数 字	英数字が	計
a. 入 退 出 管 理 の パ ス ワード	4.8	134 75.3	37 20.8	7 3.9	178件 100.0%
b. 端 末 操 作 の パ ス ワード	5.9	198 25.6	476 61.5	100 12.9	774 100.0
c. データベースへのアクセスの 専用パスワード	6.1	104 23.4	278 62.6	62 14.0	444 100.0
d. プログラムへのアクセスの専用 パスワード	5.9	87 22.7	243 63.4	53 13.8	383 100.0
e. ジョブ実行の専用パスワード	6.0	76 22.0	223 64.6	46 13.3	345 100.0

Q52. パスワードの管理はどのように行われていますか。(多重回答)

1	パスワードの管理部門は、使用部門から独立している	314件	35.2%
2	管理責任者が定められている	525	58.9
3	パスワードの通知は、必ず直接本人に対して行っている	375	42.1
4	有資格者が異動でその権利を失った場合当該パスワードを必ず破棄している	275	30.9
5	パスワードが記録されている媒体の取扱者は限定されている	418	46.9
計		891	—

Q53. 貴部門ではつぎの項目についてIDカードを使用していますか。

	使用して い る	使用して いない	計
入 退 出 管 理	329 26.7	902 73.3	1,231件 100.0%
端 末 操 作	134 11.0	1,079 89.0	1,213 100.0
データベースへのアクセス	30 2.5	1,149 97.5	1,179 100.0
プログラムへのアクセス	22 1.9	1,158 98.1	1,180 100.0
ジ ョ ブ の 実 行	19 1.6	1,162 98.4	1,181 100.0

4. アンケート様式

情報システム部門対象

「システム監査」普及状況調査

貴社名（または団体名）																	
所在地		Tel () - - 内線															
ご回答者役職名						ご芳名											
資本金（非営利法人においては、基金、出資金等）								5	千億	百億	十億	億	千万	百万	円		
最近1年の年商（銀行は預金残高、保険は契約高、証券は収入高） （非営利法人においては、年間事業費、歳入額等）								11	十兆	兆	千億	百億	十億	億	千万	百万	円
従業員数（学校の場合は常勤教員数、病院の場合は病床数、官 庁の場合は関係庁部所の定員数をご記入下さい。）								19	十萬	萬	千	百	十		人		

- ◇ 本調査におきましては、機密を厳守し、個別データは絶対に公表いたしません。
- ◇ ご回答賜りました企業には、全体の集計結果を後日お送り申し上げます。
- ◇ なお、ご回答は、当該項目の番号に○印をお付けいただくか、もしくは記入欄にご記入いただく方式です。

業 種 分 類	複数業種に関連する場合は、主力業種をお答え下さい。	
1 農・林・漁・狩猟・水産養殖業	16 電気機械器具製造業	31 広告・調査・情報提供サービス業
2 鉱業	17 輸送用機械器具製造業	32 情報処理サービス業・ソフトウェア業（注1）
4 建設業	18 精密機械器具製造業	33 医療業（注2）
5 食品製造業	19 その他の製造業	34 宗教法人
6 繊維工業	21 卸業・商社	35 高校
7 紙・パルプ・紙加工品製造業	22 小売業	36 大学
8 新聞業・出版業	23 金融業	37 その他の教育機関
9 印刷業・同関連産業	24 証券業・商品取引業	38 学术研究機関
10 化学工業	25 生命保険業（含代理業・サービス業）	39 法人団体・農協
11 石油製品製造業	26 損害保険業（含代理業・サービス業）	40 その他のサービス業
12 窯業・土石製品製造業	27 不動産業	42 政府
13 鉄鋼業	28 運輸・通信業	43 地方公共団体
14 非鉄金属製造業・金属製品製造業	29 電気・ガス事業	
15 一般機械器具製造業	30 放送業	

（注1）「情報処理サービス業・ソフトウェア業」では、コンピュータを利用して、情報の処理、加工等のサービスを行なうものおよびコンピュータのソフトウェア開発を行なうものをいいますが、本調査ではこれらの業務量が年間事業収入の50%以上あるものだけに限定します。

（注2）「医療業」：病院などで、その管轄が政府、地方公共団体、大学、組合などであっても、その管轄主体の分類に入れず、この医療業に入れてください。

I

一般的事項についてお答え下さい

Q 1. 通産省からシステム監査基準が公表されていることを知っていますか。

27

- | | |
|---|-------|
| 1 | 知っている |
| 2 | 知らない |

⇒ Q 3 へ

Q 2. システム監査基準の内容を知っていますか。

28

- | | |
|---|-----------|
| 1 | 良く知っている |
| 2 | だいたい知っている |
| 3 | 知らない |

Q 3. 貴社にはシステム監査人がいますか。

29

- | | |
|---|-----|
| 1 | い る |
| 2 | いない |

⇒ Q 5 へ

Q 4. システム監査人はどこに所属していますか。

30

- | | |
|---|------------------------|
| 1 | 内部監査部門 |
| 2 | 情報システム部門 |
| 3 | その他（具体的にお書き下さい： _____） |

Q 5. 貴社には情報処理システム監査技術者試験の合格者がいますか、いる場合は何人ですか（所属部門は問いません）。

31

- | | |
|---|-----|
| 1 | い る |
| 2 | いない |

32

--	--

 人

（注）システム監査とはつぎのように定義いたします。

システム監査とは、監査対象から独立した客観的な立場で、コンピュータを中心とする情報処理システムを総合的に点検・評価し、関係者に助言・勧告することをいい、その有効利用の促進と弊害の除去とを同時に追究し、システムの健全化をはかるものである。

II

システム監査の実施についてお答え下さい

Q 6. 貴部門では、システム監査を受けたことがありますか。

34

1

受けたことがある

2

受けたことはない

⇒

以下

IV

(9 ページ) にお答え下さい

Q 7. システム監査規定が定められていますか。

35

1

定められている

2

他の社内規定でシステム監査の実施が明記されている

3

定められていない

4

わからない

Q 8. システム監査はつぎのどの方式で実施されましたか。(多重回答)

36

1

内部監査部門型(監査部、考査部等が実施)

37

2

コンサルタント委託型(外部のシステム監査コンサルタントへ委託)

38

3

部門監査型(情報システム部門で実施)

39

4

指名方式(トップから指名された者がシステム監査人となり実施)

40

5

委員会方式(システム監査委員会を設置して実施)

41

6

チームアプローチ(システム監査プロジェクトチームを編成して実施)

42

7

その他(具体的にお書き下さい:

)

43

8

わからない

44

A

Ⅲ

昭和63年度のシステム監査実施についてお答え下さい

Q 9. 昭和63年度にシステム監査を受けましたか。

45

- | | |
|---|------|
| 1 | 受けた |
| 2 | 受けない |

⇒ 以下

IV

 (9 ページ) にお答え下さい

Q10. システム監査を受けたのはどの段階でしたか。(多重回答)

46

1	企画段階
---	------

47

2	開発段階
---	------

48

3	運用段階
---	------

Q11. システム監査の実施にあたっては、事前に通知がありましたか。

49

- | | |
|---|------|
| 1 | あった |
| 2 | なかった |

⇒ Q13へ

Q12. 事前通知は、システム監査実施のどれ位前に行われましたか。

50

- | | |
|---|-------------|
| 1 | 1 ～ 3 日 |
| 2 | 3 日 ～ 1 週間 |
| 3 | 1 ～ 2 週間 |
| 4 | 2 ～ 3 週間 |
| 5 | 3 週間 ～ 1 ヶ月 |
| 6 | 1 ヶ月以上 |

Q13. 事前通知は、どれ位前に行ってほしいですか。

51

- | | |
|---|-------------|
| 1 | 1 ～ 3 日 |
| 2 | 3 日 ～ 1 週間 |
| 3 | 1 ～ 2 週間 |
| 4 | 2 ～ 3 週間 |
| 5 | 3 週間 ～ 1 ヶ月 |
| 6 | 1 ヶ月以上 |

Q14. システム監査実施体制・方法に問題がありましたか。

52

- | | |
|---|------|
| 1 | あった |
| 2 | なかった |

⇒ Q16へ

Q15. どのような点が問題だと思いましたが、つぎの中から1つだけ選んで下さい。

53

- | | |
|---|-----------------------------|
| 1 | 監査目的が不明瞭であった |
| 2 | 監査人の権限および役割分担が不明確であった |
| 3 | 現場（被監査部門）との調整が不十分であった |
| 4 | 監査人の態度が良くなかった |
| 5 | 監査人の監査対象業務に関する知識が不足していた |
| 6 | 監査人のコンピュータシステムに関する知識が不足していた |
| 7 | その他（具体的にお書き下さい： _____） |

Q16. システム監査を受けた時、現場の負担はありましたか。

54

- | | |
|---|-------------------------------|
| 1 | 負担はなかった |
| 2 | 負担は多少あったが、通常業務に支障をきたすほどではなかった |
| 3 | 通常業務に支障をきたした |
| 4 | その他（具体的にお書き下さい： _____） |

Q17. どのような点に問題があったと思いますか。つぎの中から1つだけ選んで下さい。

55

- | | |
|---|---------------------------|
| 1 | システム監査計画に無理があった |
| 2 | システム監査方法が現場を無視したものであった |
| 3 | システム監査人へ提出すべき資料を整理していなかった |
| 4 | 資料提出や意見聴取の指示が不明確であった |
| 5 | 資料要求が多すぎた |
| 6 | 現場の説明がシステム監査人に理解されなかった |
| 7 | 監査プログラムの使用のために現場に負担がかかった |
| 8 | 実地調査が多すぎた |
| 9 | その他（具体的にお書き下さい： _____） |

Q18. システム監査を効率的に実施するためには、どのようにしたらよいと思いますか。最も重要と思われるものを1つ選んで下さい。

56

- | | |
|---|------------------------|
| 1 | 監査技法の利用 |
| 2 | 情報システム部門の協力 |
| 3 | 情報システム部門自身による実施 |
| 4 | 実施手続きの標準化 |
| 5 | システム監査人の能力アップ |
| 6 | 外部のシステム監査コンサルタントの利用 |
| 7 | トップ主導による実施 |
| 8 | その他（具体的にお書き下さい： _____） |

Q19. 監査結果について、システム監査人と貴部門との間で講評会（報告書を作成する前での意見交換、確認等を行うことをいう）が行われましたか。

57

- | | |
|---|---------|
| 1 | 行われた |
| 2 | 行われなかった |

Q20. 監査報告書の作成後に関係者を含めた監査報告会が行われましたか。

58

- | | |
|---|---------------------|
| 1 | 行われた |
| 2 | 行われなかった ⇒ Q22へ |

Q21. 監査報告会に出席されたのは誰ですか。（多重回答）

59

- | | |
|---|------------------------|
| 1 | 最高経営者（会長、社長、知事、市長 等） |
| 2 | 財務担当役員 |
| 3 | 情報システム担当役員 |
| 4 | 監査役 |
| 5 | 情報システム部門 |
| 6 | 内部監査部門 |
| 7 | ユーザ部門 |
| 8 | 外部のシステム監査コンサルタント |
| 9 | その他（具体的にお書き下さい： _____） |

Q22. 改善勧告を受けましたか

68

- | | |
|---|------------------|
| 1 | 受けた |
| 2 | 受けない ⇒ Q25へ |

Q23. 改善勧告を実施しましたか。

- 69
- | | |
|---|---------|
| 1 | 実施した |
| 2 | 一部実施した |
| 3 | 実施していない |

Q24. 報告書の指摘事項や改善勧告の内容について妥当だと思いますか。

- 70
- | | |
|---|----------|
| 1 | 妥当だと思う |
| 2 | 一部妥当だと思う |
| 3 | 妥当だと思わない |

Q25. システム監査を受けた結果、被監査部門としては効果があったと思いますか。

- 71
- | | |
|---|------------|
| 1 | 効果があったと思う |
| 2 | 効果がなかったと思う |
| 3 | どちらともいえない |
| 4 | わからない |
- } ⇒ 以下

IV

 (9ページ) にお答え下さい

Q26. システム監査はどのような点に効果があったと思いますか。つぎの中から1つだけ選んでお答え下さい。

- 72
- | | |
|---|-----------------------------|
| 1 | システムに起因する事故が未然に防止できた |
| 2 | リスク対策をどこまで考慮すればよいかが明らかになった |
| 3 | 担当者がリスクを考慮しながら業務を実行するようになった |
| 4 | システム部門に対する過大な要求がなくなった |
| 5 | システムの信頼性向上対策のレベルが明らかになった |
| 6 | システムの有効利用が促進された |
| 7 | 有効なシステムの開発設計が可能になった |
| 8 | その他(具体的にお書き下さい:) |

IV

システム監査のあり方についてお答え下さい

Q28. 企画業務の監査で重視すべき着眼点をつぎの中から1つ選んで下さい。

76

- | | |
|---|-------------------------------|
| 1 | 安全性（システムの物理的安全性／不正防止） |
| 2 | 信頼性（ハードウェア／ソフトウェアの正確さに基づく信頼性） |
| 3 | 機密性（データの権限者以外への機密） |
| 4 | 準拠性（法律、条例、規則等への準拠） |
| 5 | 採算性（コスト面からの効率） |
| 6 | 適時性（開発、導入、アウトプット作成等のタイミング） |
| 7 | 生産性（リソース面からの効率） |

Q29. 開発段階の監査で重視すべき着眼点をつぎの中から1つ選んで下さい。

77

- | | |
|---|-------------------------------|
| 1 | 安全性（システムの物理的安全性／不正防止） |
| 2 | 信頼性（ハードウェア／ソフトウェアの正確さに基づく信頼性） |
| 3 | 機密性（データの権限者以外への機密） |
| 4 | 準拠性（法律、条例、規則等への準拠） |
| 5 | 採算性（コスト面からの効率） |
| 6 | 適時性（開発、導入、アウトプット作成等のタイミング） |
| 7 | 生産性（リソース面からの効率） |

Q30. 運用段階の監査で重視すべき着眼点をつぎの中から1つ選んで下さい。

78

- | | |
|---|-------------------------------|
| 1 | 安全性（システムの物理的安全性／不正防止） |
| 2 | 信頼性（ハードウェア／ソフトウェアの正確さに基づく信頼性） |
| 3 | 機密性（データの権限者以外への機密） |
| 4 | 準拠性（法律、条例、規則等への準拠） |
| 5 | 採算性（コスト面からの効率） |
| 6 | 適時性（開発、導入、アウトプット作成等のタイミング） |
| 7 | 生産性（リソース面からの効率） |

Q31. システム監査の充実によって最も効果があがると思われるのはどのような分野ですか。つぎの中から1つ選んでお答え下さい。

79

1	コンピュータ犯罪対策
2	ヒューマンエラー対策
3	事故対策
4	自然災害対策

Q32. システム監査の充実によって最も効果があがると思われるのはどのような点ですか。つぎの中から1つ選んでお答え下さい。

80

1	適時性
2	採算性
3	生産性

Q33. システム監査の実施過程においては、どのような点を充実させなければならないと思いますか。最も重要だと思われるものを1つ選んで下さい。

81

1	監査計画
2	事前調査
3	実地調査
4	改善勧告内容
5	報告会
6	チェックリスト
7	その他（具体的にお書き下さい：_____）

Q34. コンピュータ犯罪、ヒューマンエラー、事故等の防止、ならびに早期発見の観点から、システム監査において特に重視すべき点はどこだと思いますか。最も重要だと思われる分野を各項目ごとに1つ選んで下さい。

82

84

86

分 野	データの 入力プロセス	データの 処理プロセス	情報出力 プロセス	プログラム 変更	オペレー ション	情報保管 (データ管理)	入退室 (館)	システム 開発	ハード ウェア	ソフト ウェア	通 信 回 線
コンピュータ犯罪	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
ヒューマンエラー防止	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
事故防止	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11

Q35. システム監査人の知識や能力に対して、どのようにお感じになりましたか。

88

- | | |
|---|-------------------|
| 1 | 知識・能力をもっと身につけるべきだ |
| 2 | 特にない |
| 3 | 十分満足するレベルだった |

} ⇒ Q37へ

Q36. システム監査人に不足していると思われる知識・能力等は何ですか。つぎの中から最も重要と思われるものを1つ選んで下さい。

89

- | | |
|---|---------------------|
| 1 | コンピュータ技術 |
| 2 | 業務知識 |
| 3 | 被監査部門とのコミュニケーションスキル |
| 4 | 洞察力・判断力 |
| 5 | 全体的にレベルアップ |
| 6 | 特にない |

Q37. システム監査は誰が実施するのが効果的だと思いますか。最も効果的と思われるものを1つ選んで下さい。

90

- | | |
|---|-----------------------|
| 1 | 監査役（団体等は監事、自治体は監査委員） |
| 2 | 内部の監査人 |
| 3 | 情報システム部門の要員 |
| 4 | 情報処理システム監査技術者試験合格者 |
| 5 | 公認会計士 |
| 6 | 外部のシステム監査コンサルタント |
| 7 | その他（具体的にお書き下さい：_____） |

91

C

V

外部委託についてお答え下さい

Q38. 貴部門では、昭和63年度に外部委託を行いましたか。

92

1 行った

2 行わない

⇒ 以下 VI (14ページ) にお答え下さい

Q39. 委託先の選定はどのような基準で行っていますか、つぎの中から該当するものを選んで下さい。(多重回答)

93

1 情報処理サービス業電子計算機安全対策実施事業所認定制度に基づく認定事業所であること

94

2 システム監査体制が確立していること

95

3 セキュリティ対策が十分であること

96

4 経営が安定していること

97

5 必要な技術能力を持っていること

98

6 委託料が安いこと

99

7 その他(具体的にお書き下さい:)

Q40. 外部委託業務に対してシステム監査を実施しましたか。

100

1 実施した

2 実施していない

⇒ 以下 VI (14ページ) にお答え下さい

Q41. システム監査は誰が実施しましたか。

101

1 内部監査部門

102

2 情報システム部門

103

3 その他(具体的にお書き下さい:)

Q42. システム監査はどのような点について実施しましたか。(多重回答)

104

1 委託業務の機密保持状況

105

2 委託業務の進捗管理状況

106

3 委託業務のドキュメント類の整備状況

107

4 委託業務のテスト状況

108

5 委託先のセキュリティ対策

109

6 規則・手続き等の遵守状況

110

7 その他(具体的にお書き下さい:)

Q43. システム監査はどのような方法で行いましたか。(多重回答)

- | | | |
|-----|---|-------------------|
| 111 | 1 | 実地調査 |
| 112 | 2 | 書面調査(資料提出を要求) |
| 113 | 3 | 意見聴取 |
| 114 | 4 | 質問書による調査 |
| 115 | 5 | その他(具体的にお書き下さい:) |

VI 安全対策基準についてお答え下さい

Q44. 通産省から電子計算機システム安全対策基準が公表されていることを知っていますか。

116

1 知っている

2 知らない

⇒ 以下 VII (15ページ) にお答え下さい

Q45. 同基準の内容を知っていますか。

117

1 良く知っている

2 だいたい知っている

3 知らない

⇒ 以下 VII (15ページ) にお答え下さい

Q46. 貴社では、安全対策の評価・チェック等のために同基準を使用したことがありますか。

118

1 あ る

2 な い

Q47. 同基準を使用してみて、たとえば現状にそぐわない、あるいは追加の必要がある等、内容に問題がありましたか。

119

1 あ る

2 な い

もし、ご意見がある場合は、何でも結構ですから具体的に書いて下さい。

VII

パスワード管理についてお答え下さい

Q48. 貴部門ではパスワードを使用していますか。

120

- 1 使用している
2 使用していない

⇒Q53へ

Q49. どのようなことにパスワードを使用していますか。

	使用して い る	使用して いない
121 a. 入 退 出 管 理 の パ ス ワ ー ド	1	2
122 b. 端 末 操 作 の パ ス ワ ー ド	1	2
123 c. データベースへのアクセスの専用パスワード	1	2
124 d. プログラムへのアクセスの専用パスワード	1	2
125 e. ジョブ実行の専用パスワード	1	2

Q50. パスワードは変更していますか。(Q49で回答された項目についてお答え下さい)

	定期的に変更している						変更 している が非定期	変更 していない
	1 週 間 以 内 ご と	1 ヵ 月 以 内 ご と	3 ヵ 月 以 内 ご と	半 年 以 内 ご と	1 年 以 内 ご と	1 年 以 上		
126 a. 入 退 出 管 理 の パ ス ワ ー ド	1	2	3	4	5	6	7	8
127 b. 端 末 操 作 の パ ス ワ ー ド	1	2	3	4	5	6	7	8
128 c. データベースへのアクセスの専用パスワード	1	2	3	4	5	6	7	8
129 d. プログラムへのアクセスの専用パスワード	1	2	3	4	5	6	7	8
130 e. ジョブ実行の専用パスワード	1	2	3	4	5	6	7	8

Q51. パスワードの桁数・使用文字種についてお答え下さい。（Q49で回答された項目についてお答え下さい）

	パスワードの桁数	パスワードの使用文字種		
		数 字 の み	英 数 字	英数字カナ
a. 入 退 出 管 理 の パ ス ワード	131 桁	133 1	2	3
b. 端 末 操 作 の パ ス ワード	134 桁	136 1	2	3
c. データベースへのアクセスの 専用パスワード	137 桁	139 1	2	3
d. プログラムへのアクセスの専用 パスワード	140 桁	142 1	2	3
e. ジョブ実行の専用パスワード	143 桁	145 1	2	3

Q52. パスワードの管理はどのように行われていますか。（多重回答）

- 146 1 パスワードの管理部門は、使用部門から独立している
- 147 2 管理責任者が定められている
- 148 3 パスワードの通知は、必ず直接本人に対して行っている
- 149 4 有資格者が異動でその権利を失った場合、当該パスワードを必ず破棄している
- 150 5 パスワードが記録されている媒体の取扱者は限定されている

Q53. 貴部門ではつぎの項目についてIDカードを使用していますか。

	使用して い る	使用して いない
151 入 退 出 管 理	1	2
152 端 末 操 作	1	2
153 データベースへのアクセス	1	2
154 プログラムへのアクセス	1	2
155 ジョブの実行	1	2

156

D

ご協力ありがとうございました

このアンケートは、日本自転車振興会から競輪収益の一部である機械工業振興資金の補助を受けて、平成元年度「情報化月間等に関する補助事業」の一環として実施するものです。

—— 禁 無 断 転 載 ——

平 成 2 年 3 月 発 行

発行所 財団法人 日本情報処理開発協会

東京都港区芝公園3丁目5番8号

機 械 振 興 会 館 内

TEL (432) 5405 (代表)

印刷所 三協印刷株式会社

01-R 018

1. The first part of the paper discusses the importance of the study of the history of the United States. It is argued that a knowledge of the past is essential for a full understanding of the present and for the development of a sound perspective on the future. The author emphasizes that the study of history is not merely a collection of facts, but a process of interpretation and analysis.

2. The second part of the paper examines the role of the federal government in the development of the United States. It is argued that the federal government has played a central role in the shaping of the nation's political, economic, and social structure. The author discusses the various policies and programs that have been implemented by the federal government over the years, and evaluates their impact on the country.

3. The third part of the paper discusses the role of the states in the development of the United States. It is argued that the states have played a significant role in the shaping of the nation's political, economic, and social structure. The author discusses the various policies and programs that have been implemented by the states over the years, and evaluates their impact on the country.

4. The fourth part of the paper discusses the role of the private sector in the development of the United States. It is argued that the private sector has played a central role in the shaping of the nation's political, economic, and social structure. The author discusses the various policies and programs that have been implemented by the private sector over the years, and evaluates their impact on the country.

5. The fifth part of the paper discusses the role of the individual in the development of the United States. It is argued that the individual has played a central role in the shaping of the nation's political, economic, and social structure. The author discusses the various policies and programs that have been implemented by the individual over the years, and evaluates their impact on the country.

